

再発または難治性の多発性骨髄腫

DLd(ダラザレックス+レブラミド+デキサメタゾン)併用療法 患者プロトコール

催吐リスク
<b>軽度</b>
放射線併用なし

投与プロトコール 1コース:28日間 制限なし 《開始時基準 PS:制限なし、年齢:制限なし》	投与量	投与日	投与時間	備考
--	-----	-----	------	----

1,2コース目

ルートKeep	生食 500mL	—	day1,8,15,22	—	※1 プレメディは、ダラザレックス投与の1時間前に投与	
プレメディ(内服)	抗ヒスタミン剤+解熱鎮痛剤(カロナール1000mg)		day1,8,15,22 ※1	—		
プレメディ(点滴)	デキサメタゾン19.8mg + 生食50mL		day1,8,15,22 ※1	30分		
デキサメタゾン投与終了後30分経過してダラザレックスの投与を開始する						
①	ダラザレックス:16mg/kg	mg	day1,8,15,22	使用上の注意点を参照		
day1のみ 生食(1000-ダラザレックス投与量)mL						
day8以降 生食(500-ダラザレックス投与量)mL ※2						
内服	レブラミド:25mg/body	mg	day1-21	1日1回		
内服	レナデックス錠:20mg/body※3	mg	day 2,9,16,23	—		

3~6コース目

ルートKeep	生食 500mL	—	day1,15	—	※1 プレメディは、ダラザレックス投与の1時間前に投与	
プレメディ(内服)	抗ヒスタミン剤+解熱鎮痛剤(カロナール1000mg)		day1,15 ※1	—		
プレメディ(点滴)	デキサメタゾン19.8mg + 生食50mL		day1,15 ※1	30分		
デキサメタゾン投与終了後30分経過してダラザレックスの投与を開始する						
①	ダラザレックス:16mg/kg	mg	day1,15	下記参照		
生食(500-ダラザレックス投与量)mL ※2						
内服	レブラミド:25mg/body	mg	day1-21	1日1回		
内服	レナデックス錠:20mg/body※3	mg	day 2,8,9,16,22,23	—		

7コース目以降

ルートKeep	生食 500mL	—	day1	—	※1 プレメディは、ダラザレックス投与の1時間前に投与	
プレメディ(内服)	抗ヒスタミン剤+解熱鎮痛剤(カロナール1000mg)		day1 ※1	—		
プレメディ(点滴)	デキサメタゾン19.8mg + 生食50mL		day1 ※1	30分		
デキサメタゾン投与終了後30分経過してダラザレックスの投与を開始する						
①	ダラザレックス:16mg/kg	mg	day1	下記参照		
生食(500-ダラザレックス投与量)mL ※2						
内服	レブラミド:25mg/body	mg	day1-21	1日1回		
内服	レナデックス錠:20mg/body※3	mg	day 2,8,9,15,16,22,23	—		

※2 初回投与開始時から3時間以内にinfusion reactionが認められなかった場合、1コース目day8投与時の希釈後の総量を500mLにできる。投与速度、希釈後の総量については、下記を参照。

※3 75歳を超える又は過少体重(BMI:18.5kg/m<sup>2</sup>未満)の患者にはデキサメタゾンを20mg/週で投与することを可とし、その場合は、ダラザレックス投与前に20mg(デキサメタゾン注19.8mg)を投与した。

◆ダラザレックスによるinfusion reactionを軽減させるために、投与開始1~3時間前に副腎皮質ホルモン、解熱鎮痛剤及び抗ヒスタミン剤を投与すること。(当院の運用としては、前投薬の投与は1時間前を基本とする)

また、遅発性のinfusion reactionを軽減させるために、必要に応じて投与後に副腎皮質ホルモン等を投与すること。

◆慢性閉塞性肺疾患若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者では、ダラザレックス投与後に遅発性を含む気管支痙攣の発現リスクが高くなるおそれがある。

ダラザレックスの投与後処置として気管支拡張薬及び吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。

<ダラザレックスの希釈後の総量及び投与速度>

投与時期	希釈後の総量	投与開始からの投与速度(mL/時)			
		0~1時間	1~2時間	2~3時間	3時間以降
初回投与	1,000mL	50	100	150	200
2回目投与	500mL*1)				
3回目投与以降	500mL*1)	100*2)	150	200	

\*1: 初回投与開始時から3時間以内にinfusion reactionが認められなかった場合、500mLとすることができる。

\*2: 初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/時以上でinfusion reactionが認められなかった場合、100mL/時から開始することができる。